

新旧「宍道湖・大橋川水辺のあり方（案）」比較表

第五回 斐伊川流域の水辺を考える懇談会

参考資料－２

■ 1：北岸

第四回懇談会配布資料	第五回懇談会配布、斐伊川流域の水辺のあり方～宍道湖・大橋川の水辺のあり方（案）	変更点の概要 （○：内容近似）
<p><b>移りゆく景色を楽しむ水辺</b></p>	<p><b>変化に富んだ景勝をつなぐ水辺</b></p>	
<p>自然豊かな西岸から、松江市街地をつなぐ架け橋であり、集落、田園、山地が陰影を作り、自然から都市への移り変わりを演出する。</p>	<p>自然豊かな西岸と松江市街地をつなぐ架け橋の役割を担う地域である。集落、田園、山地が織りなす里山の陰影を宍道湖の背後に抱えつつ、自然から都市への移り変わりを感ずることができる。</p>	<p>○</p>
<p>迫り来る山並み、広がる田園、点在する集落をきらめく湖面が彩る風景。起伏に富んだ道路が様々な水辺の表情を演出する。</p>	<p>宍道湖岸まで迫る山並み、山裾までひだのように広がる田園、点在する集落群、<u>これらを繰り返して進む鉄道や道路からは、起伏に富んだ地形をなぞっていくことで、時にきらめく湖面が風景に彩りを与えていることに気づかされる。</u></p>	<p>鉄道を加筆</p>
<p>秋鹿なぎさ公園などの点在する親水空間では、ゆっくりと心ゆくまで水辺に触れることができる。</p>	<p>また、秋鹿なぎさ公園などの点在する親水空間は、ゆっくりと心ゆくまで水辺に触れる機会と空間を与え、<u>十六禿などの景勝地は、風景にとって絶妙なアクセントを与えている。</u></p>	<p>十六禿を代表に景勝、風景の重要性を加筆</p>
<p>湖岸と道路の間の限られた空間をヨシなどで植栽し、宍道湖の水辺景観を印象づけ、サイクリングを楽しむ人々が、移動の合間にちょっと立ち止まりたくなるような魅力的な水辺を創造する。</p>	<p>この地域は、湖岸と道路の間の限られた空間にヨシなどを植栽することで、<u>周囲の集落、田園、山地に違和感なく溶け込む印象を醸し出し、サイクリングや散策を楽しむ人々が移動の合間にちょっと立ち止まりたくなるような、魅力的な親水空間を創造する。</u></p>	<p>水辺と背後地の融合について加筆</p>
<p>また、宍道湖西岸・南岸からの眺めに配慮し背後の緩やかな山並みと調和した水辺とする。</p>	<p>また、この地域を通る視点からだけでなく、宍道湖西岸や南岸からの遠望も意識した上で、<u>変化に富んだ独特の風景を壊さぬよう、背後の緩やかな山並みと調和した水辺となるよう配慮する。</u></p>	<p>風景に特徴があることを加筆</p>

■ 2：西岸

第四回懇談会配布資料	第五回懇談会配布、斐伊川流域の水辺のあり方～宍道湖・大橋川の水辺のあり方（案）	変更点の概要 （○：内容近似）
<p>自然と人がふれあう水辺</p>	<p>自然と人のふれあいを育む水辺</p>	
<p>砂浜やヨシ帯が再生された湖岸は、鳥をはじめとする生き物たちのえさ場、休息場を提供し、魚介類の産卵場にもなっている。背後に広がる農地とともに、多くの生き物たちが集う生態系豊かな貴重な空間となっている。</p>	<p><u>護岸の前面にある砂浜やヨシ帯の多くは人工的に再生された湖岸であるが、</u>現在は鳥たちの採食場・休息場、魚介類の産卵場など、生物にとって欠くことの出来ない営みの場として、周辺の生態系のひとつに組み込まれている。</p>	<p>人工的な場である事を加筆</p>
<p>広大な農地と点在する築地松のある民家が簸川平野特有の景観を形成している。</p>	<p>この水辺は、背後に広がる出雲平野特有の点在する築地松のある民家を抱く景観と一体を成すことで、<u>自然と人間の営みとが絶妙な間合いで調和していることに気づかされる地域である。</u></p>	<p>自然と人間の共生を加筆</p>
<p>浅く穏やかな水辺では、安心して水辺に入り、自然とふれあえる場となっており、環境学習の場としても利用されている。</p>	<p>最近では、浅く穏やかに整備された水辺に入り、自然とふれあいながら生態系を学ぶ環境学習の場としての利用もみられ、<u>環境に配慮した湖岸整備のあり方を示す場の代表として広く知られている。</u></p>	<p>環境学習の好事例であることを加筆</p>
<p>自然にふれあうことができる水辺として位置づけ、砂浜やヨシ帯の再生、水辺環境の保全に取り組んでいくとともに、さらなる利用促進を図っていく。</p>	<p>この地域は、自然とふれあうことができる水辺として、さらなる利用促進を図っていくために、引き続き砂浜やヨシ帯の再生など水辺環境の保全に取り組む。</p>	<p>○</p>
	<p><u>また、さまざまな生態系を育み、自然とふれあいながら学習できる場として継続していくためにも、浅場や植生帯など多様な水辺空間となるよう配慮する。</u></p>	<p>配慮すべき事項を加筆</p>

■ 3 : 宍道

第四回懇談会配布資料	第五回懇談会配布、斐伊川流域の水辺のあり方～宍道湖・大橋川の水辺のあり方（案）	変更点の概要 （○：内容近似）
宍道湖の香り漂う誘いの水辺	湖面に人々を誘う水辺	
<p>国道 9 号と国道 54 号の交差点に位置し、出雲空港や山陰道宍道インターを有する交通の要所となっている。</p>	<p>国道 9 号と国道 54 号の結節点に位置し、出雲空港や山陰道宍道インターを有する交通の要所を担う地域である。</p>	○
<p>空から、また、広島や島根県西部から訪れる人々が宍道湖に初めて接する場所である。</p>	<p>広島県や島根県西部など、南西方面から訪れる人々にとっては宍道湖を臨む風景に初めて接する場所であり、<u>松江市街地から湖岸を移動してきた人々にとっては水辺を名残惜しむ場所でもある。付近の水辺では釣りを楽しむ人々も見られる。</u></p>	西方向へ向かう移動者について加筆
×	<p><u>空の玄関口である出雲空港周辺には空港なぎさ公園が整備され、砂浜と宍道湖の風景を楽しむことができる親水空間からは迫力ある飛行機の離発着を間近に見ることができる。</u></p>	出雲空港周辺の状況を加筆
×	<p><u>水辺の背後に住まう農家により植えられ夏には咲き乱れる向日葵や、物流の動脈として陸空をダイナミックに行き交う交通は、活発な人々の営みを感じさせるものの、ふと他方に目を向けると、隣に広がる水田が鳥たちの貴重な採食場・休息場になっており、人と自然が活動の中でバランスを保ちながら共存していることに気づく。</u></p>	周辺（交通、住民）の活発な活動と自然とのバランスについて加筆
<p>宍道湖への西の玄関口として位置づけ、砂浜やヨシ帯を再生し、宍道湖の自然景観を印象づけるとともに、水辺にふれあえる場としてにぎわいを創出するなど、訪れた人が宍道湖に対する期待で胸をふくらませ、湖岸に寄ってみたいくなるような気持ちにさせる水辺とする。</p>	<p>この地域は、宍道湖の西の玄関口として人々の活動や生活と、水辺との関わりの近さを印象づけるような、砂浜やヨシ帯の再生による親水空間を創造する。</p> <p>また、人々が集いやすい空間を創出することで、水辺に近づきふれあえる場として、訪れた人々が宍道湖に対する期待で胸をふくらませながら寄道をしたくなる水辺となるよう配慮する。</p>	○  ○

■ 4：南岸

第四回懇談会配布資料	第五回懇談会配布、斐伊川流域の水辺のあり方～宍道湖・大橋川の水辺のあり方（案）	変更点の概要 （○：内容近似）
<p>車窓より自然と人の営みを楽しむ水辺</p>	<p>自然の恵みと歴史を感じる水辺</p>	
<p>湖岸と道路の間に存在する空間は商工業的な利用がされ、湖岸に近づける空間が少ない。</p>	<p><u>古くから自然の恵みを楽しみ、そこに暮らす人々の生活の息吹を感じられる場として様々な表情を見せる地域であり、また水辺沿いに移動する鉄道や道路からは、宍道湖独特の水辺の近さを感じる地域でもある。</u></p>	<p>自然の恵みについて加筆</p>
<p>建物等の合間からのぞく湖面や、国道9号が湖岸沿いを走るところでは、砂浜やヨシ帯、水鳥や湖面など宍道湖の景観を楽しめる。また、舟だまりやシジミ漁等、人の営みを感じる空間が続いている。</p>	<p>湖畔を走る鉄道や道路からは、水辺の風景が期待できない商業や工業施設沿いから突然広く開けた砂浜やヨシ帯、湖面で揺らぐ水鳥など、水辺の風景への躍動的な変化を繰り返し楽しむことができる。<u>一方、背後地に抱える山地では、来待石が層を成しており、舟運の発達とともに宍道湖東岸で使用された如泥石（じょでいいし）を産出した歴史を受け継いでいる。この、今も昔も変わらない人の営みと宍道湖との深い繋がりは、水辺が車窓間際まで近づくことで見える舟だまりや作業小屋、シジミ漁の風景からも感じることができる。</u></p>	<p>来待ストーンを介した歴史について加筆</p>
<p>地域に住む人々にとっては生活の中の潤いの水辺、移動する人々にとっては時折見える宍道湖の景観を楽しむ水辺として魅力を高めていく。</p>	<p><u>この地域は、場所によって異なる自然や水辺の土地利用状況から、それぞれの営みの特徴を汲み出した上で、いまの雰囲気を変えない風情に応じた取り組みを行う。</u></p>	<p>車窓からの視線だけでなく整備について加筆</p>
<p>×</p>	<p><u>商・工業用地を背後に抱える水辺では、ヨシ帯を整備することで無機物な印象を和らげ、湖の環境保全へと繋がるよう配慮する。砂浜やヨシ帯などが湖面と調和した水辺は、車窓からの視線を意識し、引き続き水辺環境の保全に取り組む。</u></p>	<p>今後の整備の方向性について加筆</p>
<p>×</p>	<p><u>また、背後に集落群を抱える水辺では、舟だまり周辺で砂浜やヨシ帯の保全・創出を行い、生活の中に潤いの水辺空間が溶け込むよう配慮する。</u></p>	<p>配慮すべき事項を加筆</p>

■ 5 : 玉湯

第四回懇談会配布資料	第五回懇談会配布、斐伊川流域の水辺のあり方～宍道湖・大橋川の水辺のあり方（案）	変更点の概要 （○：内容近似）
<p>旅情を深める趣ある水辺</p>	<p>湖畔の旅情を深める水辺</p>	
<p>年間約 70 万人の観光客が訪れる玉造温泉を抱える区間である。松江の市街地からほど近い場所にあり、宍道湖越しに松江の街並みが見渡せる。</p>	<p>年間約 70 万人の観光客が訪れる玉造温泉を背後に抱え、松江市街地に隣接するこの地域は、宍道湖越しに松江の街並みが見渡せ、<u>霧の朝、宍道湖の夕日、松江の夜景なども楽しむことができ、少し離れたところからの水辺を感じさせる。</u></p>	<p>玉造温泉が若干水辺から離れていることを加筆</p>
<p>玉造温泉に近い玉湯川河口と鳥ヶ崎には、宍道湖の水辺に触れ、宍道湖の様々な風景を楽しむことができるまとまった空間が存在する。玉造温泉の宿泊客が、宍道湖の夕日、松江の夜景、朝のシジミ漁といった風景を眺めて旅情を深める。また、周辺にすむ人々が、都会の喧噪から離れ、宍道湖の水辺で安らぐことができる。</p>	<p>鳥ヶ崎は宍道湖の拡がりを感じる事の出来る場所で、日差しを浴びた鳥たちの観察ができる。旅人は、ゆったりとした宍道湖の遠景を眺めて旅情を深め、周辺にすむ人々は、ぼんやりと松江の都会や<u>水に浮かぶ鳥たちを眺めながら、</u>喧噪から離れた宍道湖の水辺で安らぐことができる。</p>	<p>鳥ヶ先が水鳥の最適観察ポイントであることを加筆</p>
<p>宍道湖の豊かな自然と景観を保全しつつ、観光客地域住民が憩い、水に親しむことができる水辺とする。</p>	<p>この地域は、宍道湖の豊かな自然に都会の遠景が入り交じる景観を活かしつつ、地域の人々や観光客が憩い水と親しむことができる親水空間や砂浜などの水辺環境の創出に取り組む。</p>	<p>○</p>
<p>×</p>	<p><u>また、飛来する鳥たちを観察する場所として、最も相応しい場所のひとつである鳥ヶ崎周辺では、豊かな自然とふれあい、学習できる水辺となるよう水辺環境の保全・再生に配慮する。</u></p>	<p>配慮すべき事項を加筆</p>

■ 6：嫁が島

第四回懇談会配布資料	第五回懇談会配布、斐伊川流域の水辺のあり方～宍道湖・大橋川の水辺のあり方（案）	変更点の概要 （○：内容近似）
宍道湖の夕日を愛でる水辺	移ろう夕日を愛でる水辺	
<p>小泉八雲をはじめに、多くの文豪が愛した宍道湖の夕日。この夕日を最も美しく望める場所がこの区間である。</p>	<p>小泉八雲をはじめとした、多くの文豪が愛した宍道湖の夕日を最も美しく望められる地域である。</p>	○
<p>連続した水辺の親水空間は、末次公園、白潟公園、県立美術館前、夕日スポットと続く、都市の中の憩いの水辺として整備され、広く利用されている。</p>	<p><u>水辺に整備された親水空間は、末次公園、白潟公園、県立美術館前、夕日スポットと帯状に続き、都市の中における憩いの水辺として、地元の人々だけでなく、松江を訪れる県内外からの多くの観光客にも広く利用されている。特に、夕日の見える美術館として知名度のある県立美術館前から夕日スポットにかけての親水空間は、休日ともなると多くの人で始終賑わう。</u></p>	観光客からの視点を加筆
<p>朝霧や夜景、夏の花火に秋のハゼ釣りなど、時刻・四季折々に様々な表情を見せるこの水辺は、市民のみならず、国際文化観光都市松江を訪れる観光客をも魅了して止まない。</p>	<p>嫁ヶ島を前景に溶けゆく赤い夕日は、宍道湖を代表する風景としてあまたの人々の心を惹きつけるが、この付近では夕日の他にも、朝霧とそこに浮かぶシジミ漁、夜景、夏の花火と秋のハゼ釣りなど、時刻・四季折々に様々な顔を持つ。その表情豊かな風景は、市民のみならず、国際文化観光都市である松江を訪れる観光客をも魅了して止まない。</p>	○
<p>観光地としての魅力をますます高めるなど観光利用を意識するとともに、散策や夕日を見て明日への活力を充てんするなど各人が思い思いの時間が過ごせる、街の中のオアシス的な水辺とする。</p>	<p>この地域は、観光地としての魅力を今後も高めていくため、<u>風景の中に馴染むのはもちろんのこと、湖岸の回遊、散策、憩いの場の創出など、観光客による利用をも意識することで、ふらりと立ち寄った誰もが使い勝手の良い、移動しやすい水辺空間を創出する。</u></p> <p>また、近隣の都市部に住み働く各人が思い思いの時間が過ごせる街の中</p>	<p>観光客からの視点を加筆</p> <p>○</p>

■ 7 : 大橋川上流

第四回懇談会配布資料	第五回懇談会配布、斐伊川流域の水辺のあり方～宍道湖・大橋川の水辺のあり方（案）	変更点の概要 （○：内容近似）
<p><b>歴史を刻む暮らしの水辺</b></p>	<p><b>歴史を刻み賑わう水辺</b></p>	
<p>城下町として、過去から人の暮らしの中心として、時代とともに発展してきた水辺。松江城や堀川といった歴史的建造物や、現代の商業施設に至るまで、様々な時代を想わせる建物や住宅などからなる市街地。</p> <p>都市の中を貫流する大橋川の中で、最も都市的な景観を持つ場所でありながら、城下町の風情も残す。</p> <p>朝霧の中でのシジミ漁、朝日・夕日・夜景、柳並木と一体となった水辺となっており、松江城、堀川と遊覧船、遠くに望む大山とともに、松江観光の中心である。</p>	<p>松江城や堀川、大橋や老舗旅館など城下町の歴史と伝統を感じさせる地域であると共に、昔ながらの民家や商業施設が建ち並ぶなど、古くから人々の暮らしの中心として発展した地域でもある。</p> <p>近年ではいくつかのビルが建ち並び都市化の進展も感じさせる地域である。</p> <p>朝霧の中でのシジミ漁、朝日・夕日・夜景、柳並木、遊覧船、遠くに望む大山など水辺に彩りを添えるものがあまたとある。<u>特にこの地域では、街と水面の近さを感じることができる。</u></p>	<p>親水の地区であることを加筆</p>

■ 8 : 大橋川中流

第四回懇談会配布資料	第五回懇談会配布、斐伊川流域の水辺のあり方～宍道湖・大橋川の水辺のあり方（案）	変更点の概要 （○：内容近似）
<p><b>緑と碧が広がる水辺</b></p>	<p><b>水郷の原風景を伝える水辺</b></p>	
<p>くにびき大橋より下流の田園地帯は、都市の中にありながら、空間の広がりを感じさせる区間。</p> <p>大橋川や剣先川、朝酌川といった河川、中州に広がる田園と水路網など、まとまった緑と碧の水郷のイメージを醸し出す。</p> <p>多賀神社前付近で5つの河川が合流するまでの空間からは、のどかな田園風景の向こうに都市の景観が眺望できる。</p>	<p>大規模な建造物も少なく、中の島や、中州の水田・緑地・水路などが織りなす大橋川独特の豊かさを感じさせる地域である。</p> <p><u>水際部を中心に、ヨシなどの湿性植生が分布し水鳥等の生息地となっている。鏡のように静かな水面をボートが這うように進む背後には嵩山、和久羅山から延びる稜線が広がっている。</u></p>	<p>穏やかな川面を擁する地区であることを加筆</p>

■ 9 : 大橋川下流

<p>第四回懇談会配布資料</p>	<p>第五回懇談会配布、斐伊川流域の水辺のあり方～宍道湖・大橋川の水辺のあり方（案）</p>	<p>変更点の概要 (○:内容近似)</p>
<p>古の流れを感じる水辺</p>	<p>いにしえの流れを慈しむ水辺</p>	
<p>河岸と河川内には、多賀神社、矢田の渡し、塩楯島には手間天神社があり、近傍には石屋古墳があるなど大橋川沿いのこの水辺は出雲国風土記にも記されているほど歴史が古い。昔の人々の暮らしの情景を彷彿させる古の流れを感じる水辺。</p>	<p>出雲風土記にも記載の残る多賀神社や、塩楯島の手間天神社、長い間地域の文化的財産として受け継がれてきた「矢田の渡し」と周辺の赤瓦集落は、川とともに歩んできた歴史・伝統を感じさせる地域である。</p> <p>下流にまとまった集落が存在する辺りは、戦国時代より明治にかけて主に帆船の風待港として利用され賑わいをみせていた。</p> <p><u>河口付近の川沿いでは、水際部を中心にヨシ等の湿性植生が分布し、背後の水田などが水鳥等の採食場・休息場となり豊かな自然もみられる。</u></p>	<p>自然が豊かな地区であることを加筆</p>